



特別号 藤城だより

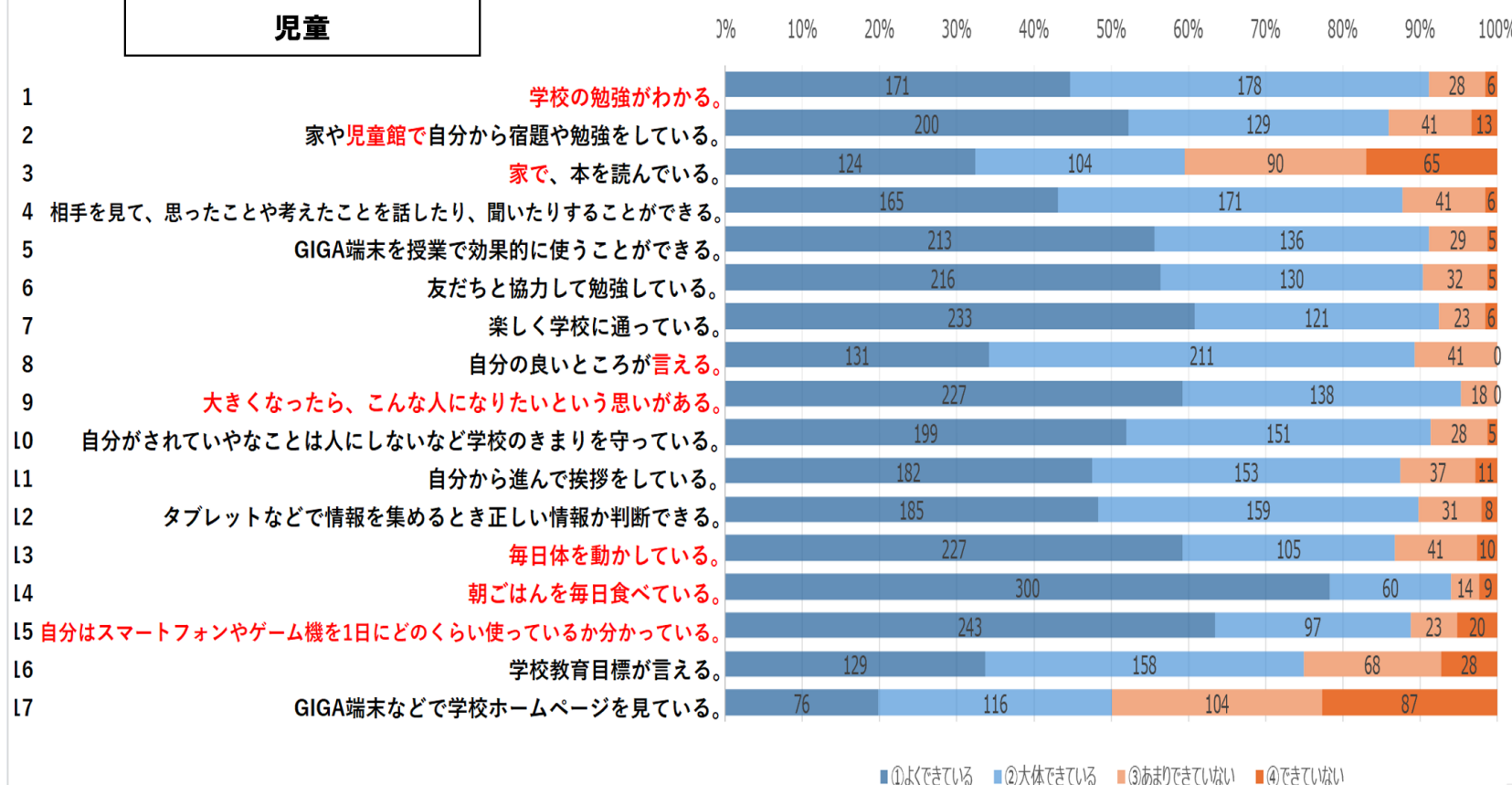
令和8年10月1日
京都市立藤城小学校
Tel 621-5580
野崎 敦

よりよい藤城教育のために ～令和8年度前期 藤城教育アンケート～

7月に実施した前期藤城アンケートの結果をまとめました。今年度も、児童・保護者・地域の皆様・教職員の4つの視点から、藤城の子どもたちの実態を振り返り、良さや課題、そして2学期に向けて目指したい姿について考えました。

また今年度は、第1回学校運営協議会でいただいたご意見をもとに、アンケート項目を見直しました。さらに、今回の結果について協議した9月の学校運営協議会では、地域の皆様から地域の視点ならではの貴重なご意見を数多くいただくとともに、藤城小学校への温かい期待や熱い思いを共有することができました。今後も、アンケート結果やいただいたご意見を学校教育活動に生かし、子どもたちの健やかな成長につなげてまいります。（※項目の赤字は昨年と変更した文言です。）

児童



成果

特に肯定的回答が多い項目です。

- ・朝ごはんを毎日食べている
 - ・楽しく学校に通っている
 - ・大きくなったらなりたい自分がある
 - ・毎日体を動かしている
 - ・GIGA端末を授業で効果的に活用できる
 - ・友達と協力して勉強している
 - ・学校の勉強がわかる
- 学校生活への満足感や学習への理解、協働的な学びは概ね良好



課題

- ① 家で本を読んでいる
最も課題が大きい項目の一つ。
・読書習慣の定着
・読解力向上への取組
が必要と考えられます。



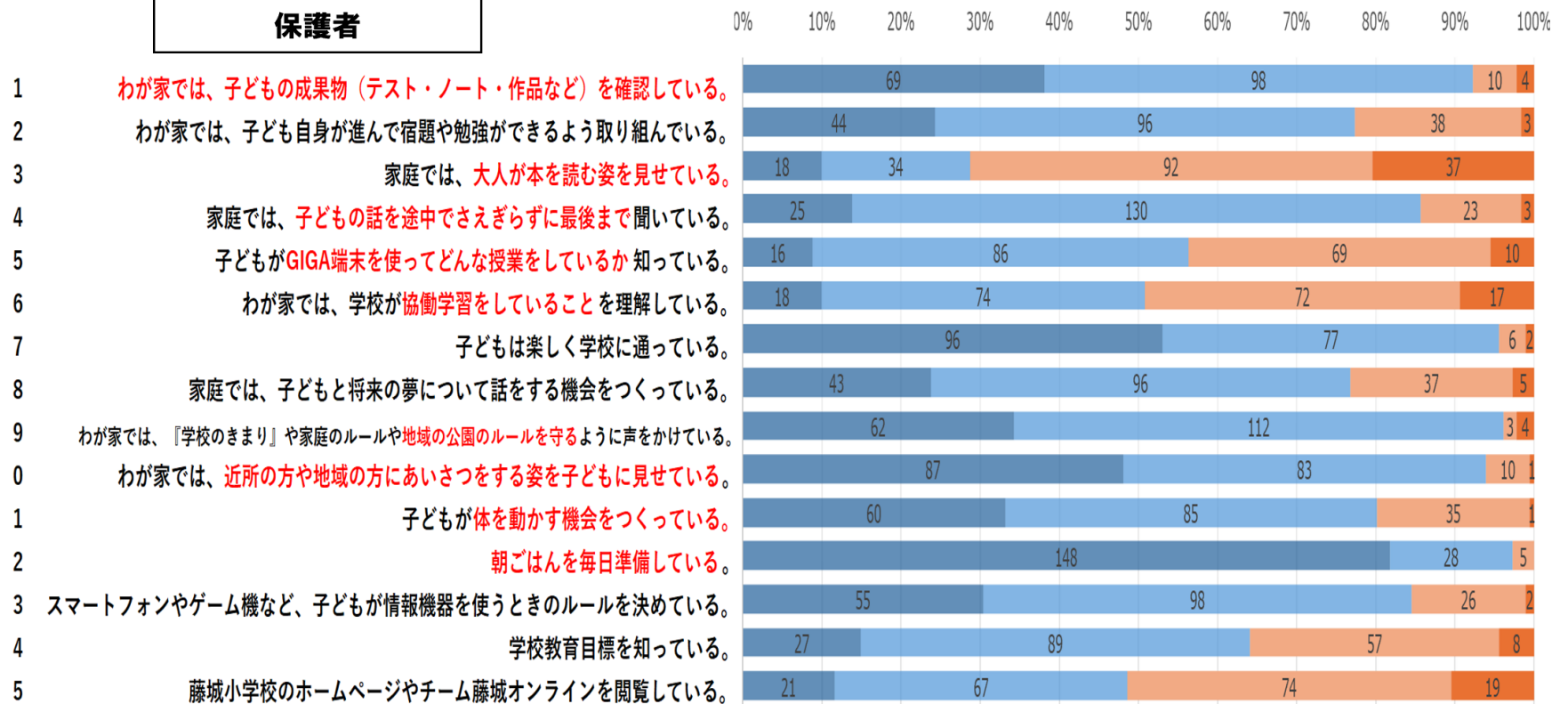
- ② 学校ホームページを見ている
否定的回答が多い。
・児童自身が学校情報に触れる機会が少ない
・活用目的の明確化が必要

- ③ 学校教育目標が言える
肯定的回答は多いものの、他項目と比較するとやや低い。
・教育目標を自分事として理解する取組が必要

今後伸ばしたい項目

- ・自分の良いところが言える（自己肯定感）
- ・自分から進んで挨拶をする
- ・相手を見て話したり聞いたりする
- ・正しい情報を判断する力（情報活用能力）

保護者



成果

- ・子どもが楽しく学校に通っている
- ・朝ごはんを毎日準備している
- ・家庭でルールやマナーを大切にしている
- ・地域の方へのあいさつを意識している
- ・子どもの成果物（テスト・ノート等）を確認している

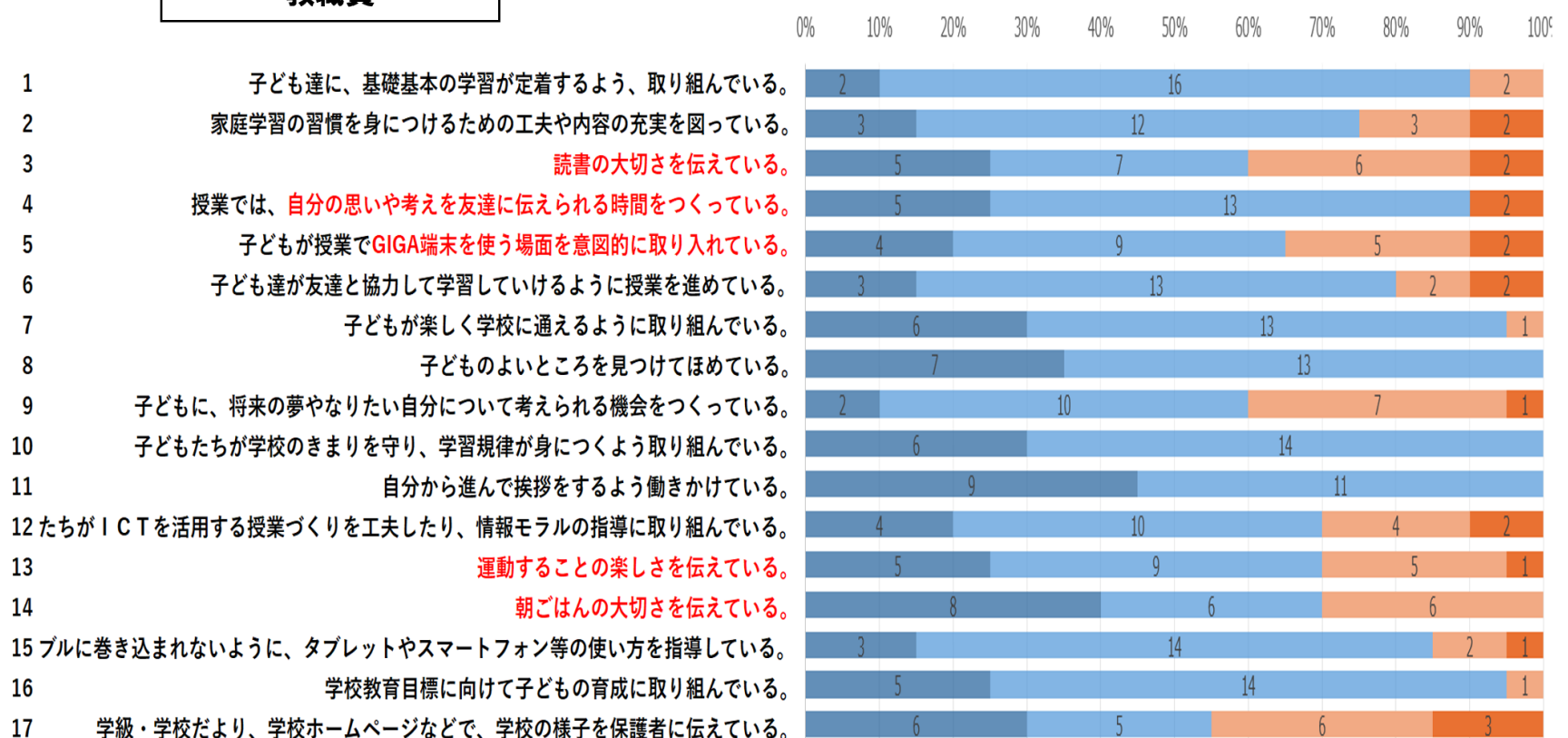
課題

- ・家庭で大人が本を読む姿を見せること
- ・学校ホームページやチーム藤城オンラインの閲覧
- ・GIGA端末を活用した学習内容への理解
- ・協働学習への理解 学校教育目標の周知

保護者アンケートからは、家庭における生活習慣や学校生活への満足度は高いことがうかがえる。

一方で、読書習慣の醸成、ICT活用への理解、学校教育目標や学校の取組の共有に課題が見られ、家庭と学校のさらなる連携が求められる。

教職員

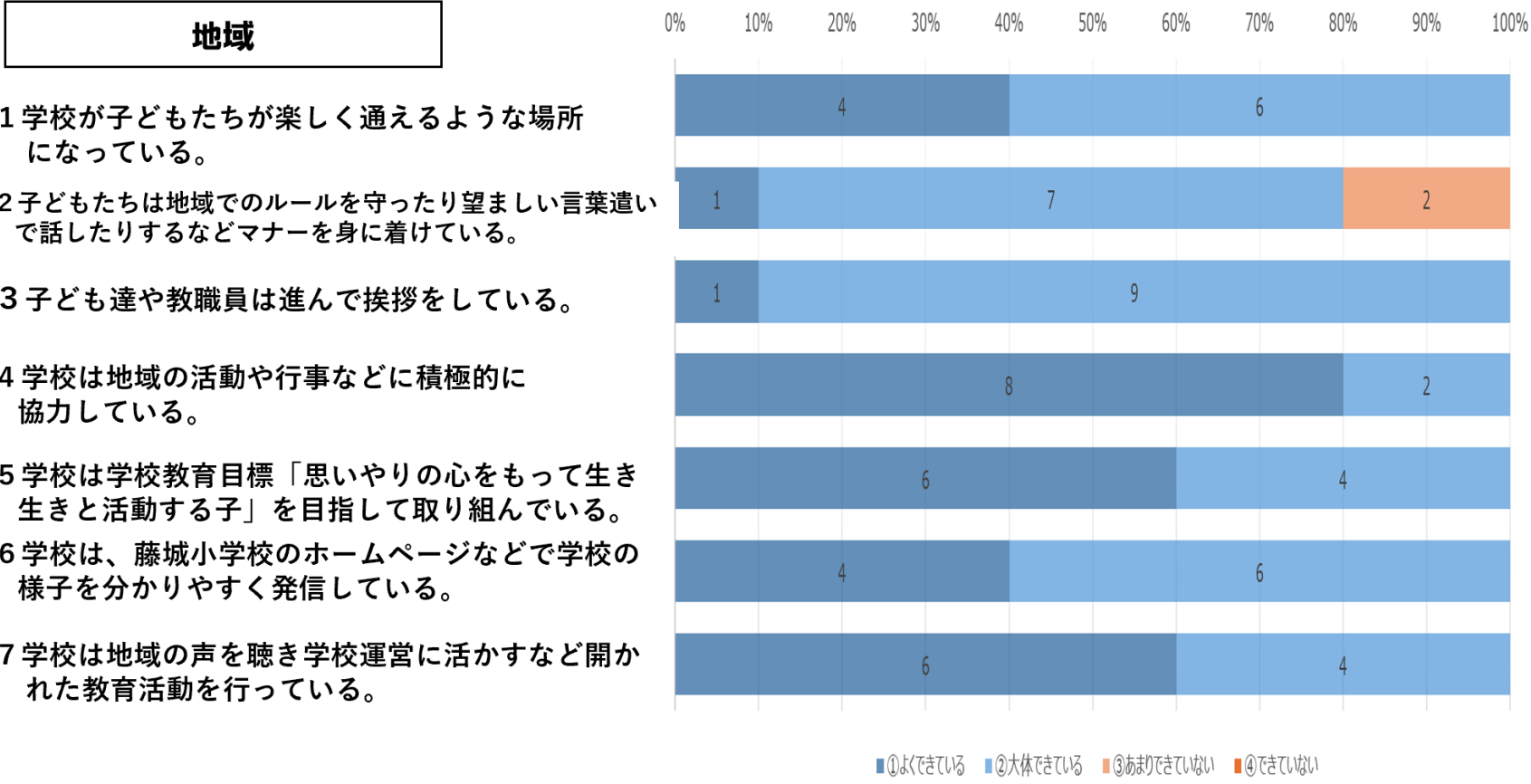


■①よくできている ■②大体できている ■③あまりできていない ■④できていない

成果	課題
・子どものよいところを認め、ほめている ・子どもが楽しく学校に通えるよう取り組んでいる ・学校のきまりや学習規律の定着を図っている ・あいさつの推進 ・学校教育目標を意識した指導	・読書指導・読書習慣の定着 ・家庭学習習慣の充実 ・将来の夢や生き方を考える機会づくり ・ICT活用や情報モラル指導の充実 ・学校の取組を保護者へ発信すること

教職員は、子どもの良さを認めながら、安心して学校生活を送れる環境づくりや規律の定着に力を入れている。

一方で、読書習慣の形成、家庭学習の充実、キャリア教育、家庭・地域への情報発信に課題意識をもっていることがうかがえる。



<学校運営協議会での話し合い>



首席社会教育主事
谷知加子先生からのご講評

顧問の目白大学名誉教授 原克彦先生と
奈良教育大学教授 伊藤剛和先生の講義の
様子

学校運営協議会会長 松井順子様より
運営協議会の総括

<グループ協議で出たご意見>

- ・アンケート項目を読んで保護者がどのような言動をすることが大切なかが分かることがよい。項目ごとに振りかえられる。
- ・地域のアンケートの数が少ないので、もう少し広くアンケートをとり、分析できたらいいのではないかと。また、アンケートの項目の主語が児童について書いてあるが、それでは答えにくいので地域の方がどうしているかという見方で答えられるような項目にしてもいいのではないかと。
- ・あいさつについては、大分返してくる子も増えたが、自分から進んであいさつをしてくれる児童は高学年になればなるほど減ってくる傾向がある。
- ・協働学習を学校がどのように進めているかはまだまだあまり理解できていないので、保護者の方にも学校も取組や意図をもっと説明する必要がある。
- ・読書においては、家で本を読んでいる姿を親が見せているかという項目で、今はスマホなどでニュースや本を読んでいる大人も多いので一概に紙媒体の本を読んでいることが理想の姿であるとは言えないのかなと思う。ただ、活字離れや本離れが進んでいる中で大人がきちんと本を読むことが大切であることを子どもと一緒に共有していくことは大事だと思う。
- ・ほとんどのご家庭で毎日朝ごはんを準備されていて子どもが朝ごはんを食べて学校に来ていることはいいことだと思う。朝ごはんを食べる習慣はこれからも継続していただきたい。
- ・子どもの将来の夢や情報過多による選択の難しさ、家庭での本の読み聞かせや環境づくりが難しいと思う。

<顧問の先生たちからのご意見>

- ・次期学習指導要領を見据えた情報教育の動向について近年、AI の活用などが注目されており、これからの学校教育においても情報を適切に活用する力を育てていくことが大切である。
- ・便利な技術を活用しながらも、子どもたちには人と人との関わりの中で学び合い、自分で考え、伝え合う力を育てていくことが重要であるという意見も出されました。AI 時代だからこそ、主体性や共感性、対話を通して学ぶ力を大切にしていきたいと思う。
- ・学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら協力し、子どもたちの成長を支えていくことの大切さについてもお話がありました。今後、小学校段階から情報教育がさらに充実していく中で、情報を適切に扱う力や、その特性を正しく理解する力を育てていくことが求められる。

顧問の先生方からは、アンケートの見直しや自己評価の取組が学校改善につながっているとの温かい評価をいただきました。地域・家庭・学校が連携しながら、子どもたちの主体性や共感性を育てていけるよう、引き続き取り組んでまいります。